

〈新薬師寺関連略年表〉

|             |  |
|-------------|--|
| 751(天平勝宝3)年 | 聖武天皇病氣平癒のため、新薬師寺で続命法による設齋行道が行われる(『親日本紀』)。  |
| 756(天平勝宝8)年 | 『東大寺山堺四至図』成立。新薬師寺堂として七仏薬師金堂が描かれ、この年までに建立。  |
| 762(天平宝字6)年 | 新薬師寺七仏薬師像の白毫、光背など制作『正倉院文書』)。東大寺造営修理塔寺料封一千戸のうち百戸が新薬師寺に施入され、塔・仏殿・僧坊等の供養修造料に充てられる(『東大寺要録』)。 |
| 763(天平宝字7)年 | 新薬師寺七仏薬師像の脇侍菩薩、神王像(十二神将働造立。この頃、金堂、壇院(壇所、薬師悔過所、政所院、温室、造仏所(造丈木像所)の存在が記載される(『正倉院文書』)。       |
| 764(天平宝字8)年 | 西塔の存在が知られる(『正倉院文書』)。   |
| 772(宝亀3)年   | 新薬師寺の総供養に東大寺から資材を借りる(『正倉院文書』)。   |
| 780(宝亀11)年  | 新薬師寺西塔焼失(『続日本紀』)。新薬師寺仏殿九間とあり、西塔以外に金堂・講堂も焼失とあるが(『東大寺要録』)、葛城寺の記事に引かれた記事の可能性あり。             |
| 962(応和2)年   | 台風で新薬師寺七仏薬師金堂倒壊。   |
| 鎌倉時代        | 貞慶士人、一時新薬師寺に住し再興に尽力。東門・南門・鐘楼などを建立。   |
| 鎌倉時代中期      | 興福寺領南都七郷の新薬師寺郷となる。   |
| 1602(慶長7)年  | 徳川家康、新薬師寺に百石の寺領を安堵する。<br>将軍綱吉の母桂昌院の尽力で、本尊薬師如来像、十二神将像の修理を行う。                              |
| 1908(明治41)年 | 現奈良教育大学構内が陸軍歩兵53連隊の駐屯地となる。   |
| 終戦後         | 連隊跡は米軍に駐屯地として接收され、米軍キャンプ奈良C地区が置かれる。  |
| 1958(昭和33)年 | 奈良学芸大学(当時)が登大路町から移転。   |

〈位置写真〉

